

第 28 回

2017. 03. 01

講 師：

新保敦子（早稻田大學教育・綜合科學學術院教授）

講 題 / テーマ：

現代日本社会における家庭教育への挑戦



▲辻本雅史教授



▲新保敦子教授

摘要：

回顧歴史，戦後 70 年來正是日本社会激烈動盪的一大時期。第二次世界大戰、戦後經濟成長、都市化、核心家庭化、以至近年的「私人化」、「個人化」，日本在這段歲月經歷了急速的社會變遷。而近代學校教育的普及，也對家庭教育直接或間接地造成了很大的影響。

本報告將從近年来的少子化、私人化讓日本的家族關係產生的變化開始說明，並進一步闡明這如何與家庭教育問題連結、以及「家庭教育危機」的具體情況。進一步地，會以具體事例介紹對於家庭教育的諸多課題，日本的學校及地方社会是如何克服並提供支援。

要旨：

戦後70年間を振り返ってみれば、日本は、まさに社会變動の最中にあつた。第2次世界大戰、戦後の經濟成長、都市化、核家族化、あるいは近年の私人化、個人化といった急速な社会變動を日本は経験してきた。さらに近代学校教育の普及は、家庭教育に直接・間接に大きな影響を与えてきた。

本報告においては、近年の少子化、私人化に伴って日本の家族はどのように変容をとげ、家庭教育に関わる問題が生じているのか、家庭教育の危機と言われる状況とはいかなるものかをまず明らかにしていく。その上で、家庭教育の諸課題に対して学校や地域社会がどのように克服しようとしているのか、家庭教育支援を行っているのか、具体的な事例を踏まえて紹介していきたい。





由於筆者是中國教育研究者，將會加入與中國的比較的視點來進行論述。

- ① 自我介紹（與近年研究）
- ② 變遷中的日本家族
- ③ 家庭教育諸現象
- ④ 家庭教育支援－以家庭教育與地方教育為中心◆

報告者は中国教育研究者であるため、中国との比較の視点を盛り込みつつ、論じていく。

- ① 自己紹介(近年の研究を含む)
- ② 変動の中の日本の家族
- ③ 家庭教育の諸相
- ④ 家庭教育支援－学校教育及び地域教育をめぐって◆



▲來賓提問

第 29 回

2017. 03. 09

講 師：

山崎洋子（福山平成大學教授）

講 題 / テーマ：

日本の新教育運動が意味するもの
— 欧米の教育思想の受容と展開 —



▲山崎洋子教授

摘要：

筆者一直以來以 19 世紀末在英國發生的新教育運動為主要研究。最初的疑問起於日本如何應對從 1970 年代開始出現的「學校教育荒廢」現象。所謂的「學校教育荒廢」，意指問題學生、不去上學、厭惡學校、班級崩壞等等問題，複合且多重相互影響下的學校教育現況。學校教師們至今仍為此傷透腦筋。話雖如此，這個現象其實也是孩子們對於近代學校教育的批判、反命題形式的表現，因此認為有檢討其意義之必要性。

本演講將聚焦於以批判日本近代學校教育所稱頌的赫爾伯特學派教學法而發端的，

要旨：

筆者のこれまでの主な研究は 19 世紀末のイギリスに生じた新教育運動であり、その初発の問いは、日本の 1970 年代に現れた「学校教育荒廢」現象にいかに向き合うかということにあった。「学校教育荒廢」は、落ちこぼれ、不登校、学校嫌い、学級崩壊といった問題状況が複合的かつ多重に絡み合った学校教育現場の現象であり、それは今なお、学校教師を悩ましている。とはいえ、この現象は、近代の学校教育に対する子どもたちの批判・アンチテーゼの表れでもあるがゆえに、その在り方を検討する意味・意義を提起している。

本講義では、日本の近代学校教育が称揚したヘルバルト学派の教授法への批判によって始まった、19 世紀末から 1930 年代までの「新教育 (New Education)」思想を取り上げ、その変遷過程を欧米の新教育思想の受容と展開の観点から描出し考察を加える。



▲學生提問



活躍於 19 世紀末至 1930 年代的「新教育」思想，並從與歐美新教育思想之間的接受與展開的視點考察其變遷過程。

日本的新教育運動（也稱為大正自由教育運動），是在吸收美國、英國、法國、德國的新教育思想的過程中發展的。這具有多重的涵義，要理出清晰的歷史脈絡並不容易。但近年來在此領域總算開始有系統化的研究成果。日本的新教育思想，雖然歷經文化的衝突，但在吸收與接納後產生變革，而被今日的日本學校教育所繼承。因此，在探討日本現今的學校教育上，此為相當具有有效性的歷史現象。何謂教育？何謂學校？我希望能與各位再一起重新思考。◆

日本の新教育運動(大正自由教育とも称される)は、アメリカ、イギリス、フランス、ドイツなどの新教育思想を受容しながら展開していくが、それは多義的な意味内容をもっており、明晰な歴史編纂(historiography)は難しい。しかし、近年ようやく体系的な研究成果が出始めた研究領域である。日本の新教育思想は、文化的衝突を経験しながらも、受容・吸収され変容を経て今日の日本の学校教育に継承されている。そのため、日本の今日の学校教育の課題を考える上でも有効な歴史事象である。参加者とともに、教育とは何か、学校とは何か、ということのを再考したい。◆



第 30 回

2017. 03. 15

講 師：

陶徳民（關西大學文學部教授）

講 題 / テーマ：

私の新刊「日本における近代中国学の始まり
—漢学の革新と同時代文化交渉」について

▲陶徳民教授

摘要：

序 論 「土生土長」的漢學邁向的近代革新

第一部 文章論、「文學革命」觀與漢文直讀的問題

第一章 明治大正時期的桐城派文章論之影響
有關藤野海南、重野安繹、西村碩園之考察

第二章 民國初期的日本知識份子對於「文學革命」之反應—吉野作造、青木正兒、西村碩園的情況—

第三章 近代「漢文直讀」論的起源與結果以重野安繹、青木正兒、倉石武四郎爲中心的思想狀況

要旨：

序 説 「土着」の漢学が目指した近代的革新

第一部 文章論、「文学革命」観および漢文直読の問題

第一章 明治大正期における桐城派文章論の影響—藤野海南・重野安繹・西村碩園などに関する考察—

第二章 民国初期の「文学革命」に対する日本知識人の反応—吉野作造・青木正兒・西村碩園の場合—

第三章 近代における「漢文直読」論の由緒と行方—重野安繹・青木正兒・倉石武四郎をめぐる思想状況—





第二部 以文章選錄與人物評價為中心的
切磋琢磨

第四章 天保期の藤澤東咳對「海外新書」的
解讀—以荻生徂徠與大鹽中齋的評價
問題為中心—

第五章 星野恆選錄・關於王韜對評價「明
清八家文」—以「方望溪文抄」為
中心之考察—

第六章 受到內藤湖南的章實齋彰顯影響的中
國學者—關於胡適、姚名達與張爾田
之間的交流—◆

第二部 文章選錄と人物評価をめぐる切磋
琢磨

第四章 天保期の藤澤東咳から見た錢泳編
『海外新書』——荻生徂徠と大鹽
中齋の評價問題をめぐって—

第五章 星野恆選錄・王韜評点『明清八家
文』について—『方望溪文抄』を
中心とする考察—

第六章 内藤湖南の章實齋顕彰に刺激され
た中国の学者—胡適・姚名達およ
び張爾田との交流について—

附録 関西大学と二松学舎大学における
講演◆



▲學生提問

第 31 回

2017. 04. 26

講 師：

森田明彦（尚絅学院大学現代社会学科教授）

講 題 / テーマ：

「天理、国法、人情」

—東アジアにおける共有の精神的資産として



▲森田明彦教授

摘要：

東亞目前面臨的緊迫課題，是舊金山和平條約、美日安保條約之後，新地域性安全保障體制的確立。舊金山合約體制在美國壓倒性的國力背景下，以兩國間非對稱性的安全保障制度為主軸穩定東亞地區。而如今隨著美國勢力相對衰退、中國勢力的崛起，以及日韓的發展，此體制之有效性漸趨薄弱，東亞的知識份子與領導人必須以繼續和美國攜手合作為前提，協力制定出新的地域性安全保障體制。另一方面，東亞各國的社會因歷史及領土問題產生深刻歧異。為跨越此對立，必須要有新的「敘事」才能描繪出共有的未來。所謂「敘事」，意指賦予該制度正統性的「共同敘述」。在東亞，長年的歷史脈絡形成了「天」「理」「義」「仁」等固有的倫理觀及思想，直至今日仍作為日常的社會、政治理念，成為該地區人們的精神骨幹。

要旨：

東アジアが直面する喫緊の課題はサンフランシスコ体制後の新たな地域的安全保障体制の確立である。米国の圧倒的国力を背景とした非対称的な二国間安全保障制度を柱とするサンフランシスコ体制が米国の相対的な衰退、中国の台頭、日韓の発展によって有効性を失いつつある今日、東アジアの知識人・指導者は米国との継続的な連携を前提として新たな地域的安全保障体制を生み出すための協働を進めなければならない。一方、東アジア各国の社会は歴史問題と領土問題によって深く分断されている。この対立を乗り越え、共有の未来像を描くには新たな「物語」が必要である。「物語」とは当該制度に正統性の感覚を付与する「共有の語り」のことである。東アジアでは長年の歴史を通じて「天」「理」「義」「仁」といった固有の倫理観念と思想が形成され、今日でも日常的な社会的・政治的理念として同地域の人びとの精神的バックボーンとなっている。



然而，根據明治時期以後的「脫歐入亞」政策，以及戰後的對美從屬政策，似乎可以看出日本已經捨去東亞固有的普遍價值。

本演講以構築東亞共有的新「故事」為目標，參照平石直昭、水林彪、丸山真男、源了圓、汪暉等人的論點，就「天理、國法、人情」這些地域共有的政治理念進行整理與討論。◆

一方、日本は明治以降の「脱亜入欧」政策、そして戦後の対米従属政策によって、東アジア固有の普遍的価値を切り捨ててしまったかのように見える。

本講義では東アジア共有の新たな「物語」を構築することを目指し、平石直昭、水林彪、丸山真男、源了圓、汪暉等の論考を参照しつつ「天理、国法、人情」という地域共有の政治理念について若干の整理と検討を行う。◆

第 32 回

2017. 06. 01

講 師：

趙全勝（美國美利堅大學國際關係學院教授兼亞洲研究理事會主席）

講 題 / テーマ：

中美日三邊關係：日本外交政策辯論的視角



▲趙全勝教授

摘要：

此次講座試圖從日本外交政策辯論的視角來分析中美日三邊關係的發展與互動。日本在後冷戰時期就其外交方向展開了歷經十多年的政策辯論，從而達成了「帶傾向性的中間路線」的共識。這已經是日本近代以來的第三次外交政策辯論。日本的每一次政策辯論，都帶來了具有根本方向性的外交轉型，同時也對日本對華政策具有重大的影響。

如果把中美日三邊關係放到亞太地區大國博弈的大格局來看，更能說明「國際關係中沒有永遠的朋友，也沒有永遠的敵人」這一鐵律。從 20 世紀 90 年代初開始的日本外交政策的第三次大辯論，從表面上看不如前兩次那樣轟轟烈烈，頗為低調，但它在 21 世紀初達成的「帶傾向性的中間路線」這一共識，同樣具有深遠的意義。在可以預見的將來，特別是安倍晉三繼續執政期間，日本外交在其具體傾向上還會呈現出兩面性的特點，一方面繼續強化日美同盟，堅持「積極和平主義」，以配合美國政府推行的「亞太再平衡」戰略，並借此助推日本戰略轉型的進程；

要旨：

今回の講座では、日本の外交政策論争の角度から、日米中三カ国の関わりと発展について分析したい。日本の外交方針については、冷戦後、10数年にわたる政策論争の結果、「傾向性を帯びた中間路線」の合意に達した。これは日本では近代以降、3回目の外交政策論争であった。日本の政策論争は毎回、外交方針に根本的な転換をもたらし、あわせて日本の対中政策に大きな影響を与えてきた。

日米中三カ国の関係を、アジア太平洋地域における大国の大きな枠組みの中でゲーム論的に考えると、「国際関係では永遠の友達も敵もない」という鉄則があてはまる。

1990年代初頭より日本の外交政策は第三次大論争が始まったが、表面上は前の2回ほど劇的なものではなく、非常に控えめなものだった。しかし、21世紀の初めに合意した「中間路線」の中では、この大論争にも深い意味があることが窺える。予測可能な近未来、とりわけ安倍晋三首相の在任期間において、日本の外



▲學生提問



▲來賓提問

積極爭取「入常」，繼續介入東海、南海問題；另一方面也會加強改善對華、對韓關係，加強東亞共同體的構建。在文化層面上強調年輕人的交流，輸出日本價值觀和文化，加強其「軟實力」外交。

日本將繼續遵照經過長期的政策辯論所達成的共識，在其對外關係上尋找一個平衡點，也就是走「帶傾向性」的中間路線。其傾向性會隨著不同時期，不同的國內外環境，特別是具有不同理念的領導人執政而發生變化，對其「中間路線」有這樣或那樣的偏離。但總體而言，其外交政策的大方向還是要回歸到對日本國家利益最有利的「中間路線」。◆

交は両面的な傾向がある。一つは、日米同盟の強化を続け「積極的平和主義」のもとでアメリカ政府が推進する「アジア太平洋地域のリバランス」戦略にも協力し、これにより日本の戦略的転換を進めることである。「常任理事国入り」を積極的に目指し、日本海や南シナ海の問題にも介入を続けている。もう一つは、対中・対韓関係を改善し、東アジア共同体の構築を進めることである。文化面では若者の交流を強調し、日本の価値観と文化を輸出することで、「ソフトパワー」外交を強化した。

日本はこれまでの長きにわたる政策論争で達した合意に従い、対外関係の上で一定のバランスを求めていくことになる。それは、中間路線の方向をとることを意味する。その方向は時期や国内外の環境の違い、特に理念の異なる指導者によって生じる変化に合わせて、「中間路線」からいくらか逸れていくことになるだろう。しかし総じて言えば、その外交政策の主な方向性は、結局は日本の国家利益にとって最も有利な「中間路線」になる。◆

第 33 回

2017.06.07

講 師：

池内敏（名古屋大学人文学研究科教授）

講 題 / テーマ：

江戸時代ひとひとの日韓交流ふたつの事例



▲池内敏教授

摘要：

在日本與朝鮮各自進入「鎖國」狀態的江戸時代，日本人與朝鮮人共同生活一段時間，並以日記方式紀錄彼此之間的對話與感想等的史料是非常稀有的。在此，我將分別介紹日本人與朝鮮人留下的稀有日記資料，將其顯示的雙方交流的痕跡具體化，試圖探索江戸時代日本人與朝鮮人互相認識的一隅。

要旨：

日本と朝鮮のそれぞれが「鎖国」状態にあった江戸時代、日本人と朝鮮人が一定期間をともに過ごしながら、その間の会話や感想を書き留めたような日記に行き当たることはめったにない。ここでは、その稀有な日記資料を日本人のもの・朝鮮人のものそれぞれ一点ずつ紹介しながら、そこに示された交流の跡を具体化して、江戸時代における日本人と朝鮮人の相互認識の一端に触れてみたい。





其一是文政二年(1819)年七月，漂流到朝鮮半島西海岸(忠清道庇仁縣)的薩摩藩士安田喜藤太義方的日記。藉由安田與朝鮮官僚的筆談，可以具體了解在漂流地與當地朝鮮人的交流狀況。另一件則是享保十九年(1734)從朝鮮被派遣到對馬的翻譯官隨行，金弘祖的日記『海行記』。金弘祖自身在到達對馬之前，在釜山倭館便和對馬藩的人們有過交流，藉此得以了解在對馬府中和日本人交流的情形。

他們是如何感受彼此的文化差異與共通點？如何進行溝通？透過比較兩事例的差異與共通性，期能窺其究竟。◆



▲來賓提問

ひとつは文政二年(1819)年七月、朝鮮半島の西海岸(忠清道庇仁県)に漂着した薩摩藩士安田喜藤太義方の日記である。安田と朝鮮官僚との筆談を介して、漂着地における朝鮮人との交流が具体的に分かる。もうひとつは、享保十九年(1734)に朝鮮から対馬に派遣された訳官使に随行した金弘祖の日記『海行記』である。金弘祖自身は対馬へ渡る前から釜山・倭館で対馬藩の人々との交流があり、それを踏まえてなされた対馬府中での日本人との交流の様子が分かる。

お互いの文化の差異と共通性を彼らがどのように感じたか。どのようにして互いの意思疎通をはかったか。ふたつの事例の差異と共通性をもまた眺めてみたい。◆

第 34 回

2017. 06. 20

講 師：

松田康博（東京大學東洋文化研究所教授）

講 題 / テーマ：

試論日本安倍晉三政府的決策特徵：外交與安全政策的戰略與技術



▲松田康博教授

摘要：

雖然安倍晉三政權自第二期（2012～）以來的執政狀態一直都毀譽參半充滿爭議，但在外交與安全保障政策上，成立了新的法案並持續展現成果。這可歸功於安倍政權一改前政權作風，採取戰略來實施政治方面敏感度高的政策，習得政權經營的技術並發揮作用。在此簡短統整如下：

第一，在積極的金融財政政策上確保高支持率，並在預算編列時期以外的時間進行困難的立法作業。不放任多頭馬車並行，國會全體一次通過一項重要法案。

第二，巧妙操作議事行程，將朝野期待降低以尋求彼此的最終妥協點；經由此項操作，掌握政治主導權的同時，也容易與公民黨、維新之會等組織達成妥協。關於 2015 年的終戰 70 周年談話，安倍政權亦掌握是否「道歉」的主導權，最終以安全牌的表現方式妥協。

要旨：

2期目以降の安倍晋三政權(2012～)は毀譽褒貶が激しい政權であるが、その外交・安全保障政策は、新たな法案成立や成果が続いている。これは、同政權が従来の政權とは異なり、政治的に敏感な政策を実現するための戦略と、政權運営の技術を習得し、それを発揮しているためである。それは以下のようにまとめられる。

第1に、積極的な金融・財政政策により高い支持率を確保し、予算編成時期を外して難しい立法作業を行っている。しかも、同時に幾つもの課題を進めるのではなく、国会ごとに、1つずつ重要法案を通してしている。

第2に、アジェンダを操作して、期待を低めにもっていき、最終的に妥協点を見いだしている。このやり方により、政權が主導権を握りつつ、公明党や維新の会などとの妥協を容易となる。2015年の終戦70周年談話についても、「お詫び」を入れるかどうかの主導権を自分で握り、最終的に無難な表現で妥協した。



▲學生提問

第三，在轉換方向上變得更加柔軟。在通過特定秘密保護法與新安保法案之後，在安全保障上轉向消極的態度，專心在經濟政策上。另外對南蘇丹的PKO派遣也判定具有危險性，決定撤退。

第四，強調與各國首腦的外交活動。如同展示和俄羅斯總統普丁的私交，積極地在與各國首腦建立信賴關係方面傾注全力。作為領導一長期政權的責任者，抱持著憑藉彼此間的個人關係，在領土關係這類困難的敏感問題上持以恆心的溝通，或能另闢蹊徑的想法。

如上述，雖然安倍政權一般被認為保守意識形態過於強烈，但其最大特徵為能採取具柔軟性及實用主義色彩的統治技術。◆

第3に、柔軟に方向轉換をしていることである。特定秘密保護法や新安保法制を通過させた後、安全保障に関しては逆に消極姿勢をとり、經濟運営に専念した。また、南スーダンでのPKOに危険性があると判断して、撤退を決めた。

第4に、首腦外交へのこだわりである。ロシアのプーチン大統領との個人的な関係に見られるように、極めて積極的に各国首腦との信賴關係構築に力を傾注している。長期政權の担当者として、こうした個人的關係は、領土問題などのような困難な課題についても、粘り強い働きかけをしさえすれば、結果を出せるという考えを持っている。

このように、安倍政權は保守イデオロギー色が強いと一般に見られているが、最大の特徴は、柔軟性とプラグマティズムに基づいた統治技術にあるということができる。◆